

記事を読んで、問いに答えなさい。

①大規模小売店舗法に代わり、大型店と地域との融和を図ることを目的として1998年に公布された法律とは何か。記事中から抜き出して答えなさい。

()

②近年消費者の宅地購入時の判断基準として、近隣にドラッグストアがあるかどうか重要な判断材料になってきていることが記事から読み取れる。この判断材料になっている理由を、記事を参考にしながら説明しなさい。

[]

③あなたがもし将来宅地の購入を考える機会があるときに、どのようなことを基準にして購入を考えるか。説明しなさい。

[]

消費者の宅地購入時の判断基準として、ドラッグストアが存在感を増している。医薬品や日用品のほか、生鮮品まで幅広く扱うドラッグストアは新型コロナウイルス下の集約により需要を取り込み、県内新興住宅エリアを中心に出店が相次ぐ。大型商業施設がない地区で住環境向上に寄与し、周辺住宅地の購買意欲を高める効果を生み出している。

基準地価



新興住宅エリアに進出したドラッグストア
＝焼津市の杏林堂下ドラッグストア西焼津駅前店付近

存在感増すドラッグストア

県と静岡、浜松両市がまとめた大規模小売店舗立地法に基づき、県内小売店(店舗面積1千平方メートル以上)の状況調査によると、2021年度の新設届出件数は20年度比8件増の28件。このうちドラッグストアは8割超の23件を占めた。19年度まではほぼ直角だったスーパーの新規出店数を大きく上回って推移している。

県の担当者は「ドラッグストアは品ぞろえ充実に向けて食品加工スペース設置などに取り組み店舗の大規模化につなげている」「商業まちづくりの班と分析する。杏林堂薬局(浜松市中区)も県内全域で出店攻勢を続けている。22年は焼津市2店、静岡市駿河区1店をはじめ、駿東地区で初の長泉町1店など計6店をオープン。出店先は商圏人数や周辺商業施設の状況などを検討して決めるといふ。

大型商業施設の空白地 便利に出店続々 宅地の人気向上

隣にドラッグストアが立地しているかどうかは、住宅地購入の際の重要な判断材料になってきている」と話す。従来は学校や駅、病院、スーパーなどの距離が材料視されてきたが、開発途上の新興住宅エリアにいち早く進出したドラッグストアが日常の買い物に便利と

認識されていると指摘する。杏林堂薬局の広報担当者は「地域の生活基盤の一つとして認識してもらっている結果。物販以外に医療や予防に貢献できるような努めたい」と現状を受け止める。(浜松総局・白本俊樹、経済部・平野慧、静岡拓也)

記事を読んで、問いに答えなさい。

①大規模小売店舗法に代わり、大型店と地域との融和を図ることを目的として1998年に公布された法律とは何か。記事中から抜き出して答えなさい。

(**大規模小売店舗立地法**)

②近年消費者の宅地購入時の判断基準として、近隣にドラッグストアがあるかどうか重要な判断材料になってきていることが記事から読み取れる。この判断材料になっている理由を、記事を参考にしながら説明しなさい。

(例) 開発途上の新興住宅エリアにいち早く進出したドラッグストアが、食品などの品ぞろえを充実させ日常の買い物に便利であると消費者に認識されはじめてきたため。

③あなたがもし将来宅地の購入を考える機会があるときに、どのようなことを基準にして購入を考えるか。説明しなさい。

(例) 車での通勤時間が短く、公園や文化施設まで徒歩での距離が近いところ。

新興住宅エリアに進出したドラッグストア
＝焼津市の杏林堂下ドラッグストア西焼津駅前店付近



消費者の宅地購入時の判断基準として、ドラッグストアが存在感を増している。医薬品や日用品のほか、生鮮品まで幅広く扱うドラッグストアは新型コロナウイルス下の巣ごもり需要を取り込み、県内新興住宅エリアを中心に出店が相次ぐ。大型商業施設がない地区で住環境向上に寄与し、周辺住宅地の購買意欲を高める効果を生み出している。

基準地価

存在感増すドラッグストア

県と静岡、浜松両市がまとめた大規模小売店舗立地法に基づく県内小売店(店舗面積1千平方メートル以上)の状況調査によると、2021年度の新設届出件数は20年度比8件増の28件。このうちドラッグストアは8割超の23件を占めた。19年度まではほぼ直角だったスーパーの新規出店数を大きく上回って推移している。

県の担当者は「ドラッグストアは品ぞろえ充実に向けて食品加工スペース設置などに取り組み店舗の大規模化につなげている」と商業まちづくり班を分析する。杏林堂薬局(浜松市中区)も県内全域で出店攻勢を続けている。22年は焼津市2店、静岡市駿河区1店をはじめ、駿東地区で初の長泉町1店など計6店をオープン。出店先は商圏人数や周辺商業施設の状態などを検討して決めるという。

日本不動産研究所静岡支所の鈴木隆史支所長は「近

大型商業施設の空白地 便利に出店続々 宅地の人気向上

隣にドラッグストアが立地しているか否かは、住宅地購入の際の重要な判断材料になってきている」と話す。従来は学校や駅、病院、スーパーなどの距離が材料視されてきたが、開発途上の新興住宅エリアにいち早く進出したドラッグストアが日常の買い物に便利と

認識されていると指摘する。

杏林堂薬局の広報担当者は「地域の生活基盤の一つとして認識してもらっている結果、物販以外に医療や予防に貢献できるよう努めたい」と現状を受け止める。

(浜松総局・白本俊樹、経済部・平野慧、静岡拓也)